

# ■ご存じでしょうが■

藤本 茂樹

てきた飛行機がある。当時としてはたいへんなことであった。

この飛行機は、海軍の九六式陸攻を改造したもので「ニッポン号」と名付けられた。

エンジンは三菱製の金星四型八五〇馬力二基が載っていた。

筆者が三菱に入社してまもなくのころであった。三菱の試作工場のエンジンのベテランが乗って行った。

今どき飛行機で世界一周をするといっても誰も驚かないだろう。あたりまえのことである。昭和十四年十月三十日に羽田を出発し、世界一周を無事に果たして翌年八月二十六日に帰った。

## 南国歌壇

寶石をちりばめし如き長崎の

千万ドルの夜景楽しむ

廿枝 岡林きよ

朝明けの阿蘇の麓の新緑は

したたりやまぬ調べを持ちぬ

前浜 沢田千恵子

されど母は強しは昔の言葉

直訴せし小学生一家を救う

大埔 田所しな

天安門広場は遂に血塗られぬ

噫吾が兵が民を撃つとは

大埔 島光則

いのちふくむ有精卵の黄味かた

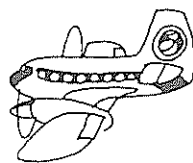
くしまりて光る味も又よき

植野 中司愛子

はしゃぎいる子等を見すてて改

定の 指導要領あまくだる朝

領石 唐岩勇



北太平洋回りで一路アラスカを目指して飛んだ。このベテランはプロペラに氷が付くのを防ぐために不凍液のポンプを押していたそうであるが、酸素ポン

ペを一本減らしたために失神してしまった。一分間に一千数回転もしているプロペラでも氷が付く、氷が付けばプロペラのおじれ角度がなくなり、丸大棒のごとくなり空気を後ろに押せないので飛行機は墜落する。他の乗員も皆失神してしまったそうである。

## 南国柳壇

おふとんを座つてたとむ年淋し

十市 大家寿恵子

裏山の緑り繁りてメジロ鳴き

十市 武市日出志

よく出来た押し葉の雀遊ばよ我

と 西山 竹村寿賀

## 南国俳壇

万年筆に微熱を移す 桜桃忌

寝袋を春の銀河の端に敷く

夕日すとんと落ちて砂漠の蒼い駱駝

根分けせる夏秋今日も所望され

散り残る一花見上げて杵徳ぶ

朝風に絶えず揺れ居り柿若葉

山吹の八重帳服を深く持つ

囀りの眞つただ中で消費税

藍染めの靴穿いてみる五月晴

森本會三呂 (南国市民句会)

山本和子 ( )

山本さち ( )

竹田明代 (柿の実会)

橋本きよ女 ( )

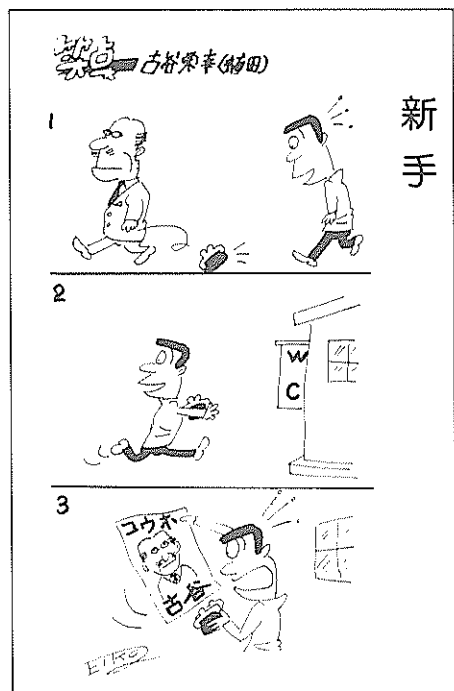
吉永加寿 ( )

馬場左枝 (忍冬句会)

高村三喜子 ( )

長野扇女 ( )

## 新手



不凍液が来ないプロペラには水がつき始めた。プロペラの効率が落ちたので飛行機の高度も下がってきた。下がれば空気が濃くなるので皆がほとんど同時に気がついた。プロペラは快適に回転している。皆がプロペラに向かつて手を合わせて拝んだそうである。失神する前に自動操縦装置に切り換えてあったからよかった。もしも手動であれば失神、墜落をしていた。コマは回転しているとその軸を傾けずに直立しようとする性質がある。高速回転するコマ(ジャイロ)の軸に操縦管を結び付けたものが自動操縦である。